Course number	G-LAS14 80001 LJ50				
Course title (and course title in English)	生命科学キャリアパス Career Paths in Life Sciences		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Biostudies Professor,KATAYAMA TAKANE Graduate School of Biostudies Professor,KAKIZUKA AKIRA Part-time Lecturer,SENGOKU SHINTARO Part-time Lecturer,ISHIDA, Hiroki Part-time Lecturer,NAGAI, Yuri	
Group	Interdisciplinary Graduate Courses		Field(Classification)	Career Development	
Language of instruction	Japanese		Old group		Number of credits	1
Hours	15	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・ Intensive, First semester
Days and periods	Intensive 3rd&4th peiod on Tuesdays (June 30, July 14, July 21 and July 28)	Target year	Graduate students	Eligible students	For science students

(Students of Graduate School of Biostudies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

生命科学領域の博士の進路は、アカデミックな研究者、バイオ関連企業における高度実務者、知財専門家、起業家、官公庁の行政専門家など多様である。本講義では、各分野で活躍する講師が提供する生命科学のキャリアに関する話題をもとに、生命科学分野の博士学位取得後のキャリア選択肢を広げ、社会で活躍する博士のイメージを具体化する。博士学位取得後の能動的なキャリアパス設計能力を身に付ける。

[Course objectives]

受講学生は、講義のなかでの議論を通じて、生命科学を学んだ博士が活躍する各キャリアを深耕し、必要なスキル・要件を理解できるようになる。社会のなかの生命科学の位置づけを理解し、自身の研究や習得した能力を有効に活用するキャリア設計ができるようになる。

[Course schedule and contents)]

第１回６月３０日 (火) 話題提供: 垣塚　彰
「研究とは何か？：論文執筆の神髄とこつ」
本講義では、講師が留学時に経験した日本の研究と留学先での研究に対する根本的な考え方と取り組み方の違いを紹介する。どちらが良いとか優れているということではなく、もしかしたら、諸君の研究に対する意識ががらっと変わり、もの凄く研究が面白くなるかもしれないような内容にしたいと思っている。

第２回７月１４日 (火) 話題提供: 石田博樹
「お客様の生活にうるおいを提供する、醸造研究から商品開発へ」
清酒醸造は、米麹という麹菌を固体培養することが特徴です。清酒醸造で最も重要な酵素であるグルコアミラーゼは、固体培養で生産され、液体培養では生産されないことを世界で初めて発見し、京都大学から論文博士（農学）を授与されました。その後、研究シーズをビジネスで活用するためには、知的財産を管理する重要性を意識し、弁理士登録しました。弁理士試験では、農学出身の自

Continue to 生命科学キャリアパス(2)↓↓↓

分が特許法など法律を学んだことがとても新鮮でした。商品開発、広報にもかかわった経験から、発見した技術を「社会に役立たせたい」という強い信念が研究者には不可欠であると思うようになりました。会社研究員人生で学んだことを通じて、一会社研究員というキャリアパスについてご紹介したいと思います。

第３回７月２１日 (火) 話題提供: 仙石　慎太郎
「'PhD'の再考とキャリア機会の多様化」
PhD (Philosophiae Doctor, Doctor of Philosophy) とは元来、特定の分野における専門性ではなく、研究者としての普遍的な資質の証である。換言すれば、PhD取得者は、課題或いはリサーチ・クエスチョンを設定する能力、設定した課題を分析的アプローチをもとに解決する能力、解決のためのプロジェクトマネジメント能力、成果を発信するためのコミュニケーション能力等を有しており、これらを活用出来るキャリア機会は研究職に限らず、多様な広がりをもつ。本講義では、講師自身の経験にもとづき、アドバイザリー・サービス（コンサルティング・ファーム、投資銀行、シンクタンク、ベンチャー・キャピタル等の提供サービスの総称）や他専門分野におけるアカデミックの活動を紹介し、これら諸活動でのPhDの意義、博士後期課程におけるキャリア計画への意味合いを議論する。

第４回７月２８日 (火) 話題提供: 長井由利
「博士号取得者が日本企業で働くということ」
博士号取得後のキャリアは多岐にわたっており、日本企業で働くこともみなさんの選択肢に入っていると思います。本講義では、話題提供者が博士課程を修了後に日本企業に入社し、企業研究者を経て現在に至るまでに経験してきた具体的なエピソードをご紹介します。本講義を通じて、企業に研究職として入社した後にどんなことが待ち受けているのか、どんな可能性を手にできるのか等、企業で働くことの一端を感じていただき、みなさんの今後のキャリアデザインの一助となることを願っています。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

出席および講義中の議論への参加で評価。3/4回以上の参加を必須とする。体調不良や学会参加等でやむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。事前に連絡なき場合は原則として欠席扱いとする。

[Textbooks]

使用しない, 講義資料を配布予定。

[References, etc.]

（References, etc.）
三浦有紀子、仙石慎太郎 『博士号を取るときに考えること　取った後できること』（羊土社）
ISBN:978-978-4-7581-2003-6

[Study outside of class (preparation and review)]

各講師の授業計画を熟読し、議論に備えること。

[Other information (office hours, etc.)]

様々なキャリアを有する方々の現場の声を聞くことができる良い機会ですので、進学を考えている修士課程の学生の聴講も歓迎です。

Continue to 生命科学キャリアパス(3)↓↓↓

生命科学キャリアパス(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。